

「後藤象二郎寓居跡&記念ギャラリー」

(ホテルリソル京都 河原町三条)

内覧会のご案内

拝啓 春日の候 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてより準備を進めて参りました「ホテルリソル京都 河原町三条」の6月1日開業に伴い、それに付随する「後藤象二郎寓居跡&記念ギャラリー」がオープンする運びとなりました。後藤象二郎については、坂本龍馬とともに大政奉還を実現させた立役者として、昨年の「大政奉還150周年」関連イベントでも取り上げられ、注目されています(施設概要は別紙参照)。

つきましては、施設オープンに先立ち、ご支援とご協力を賜った皆様への感謝をこめて、各施設の内覧会を開催いたします。

御多用中のところ誠に恐縮でございますが何卒御光臨の栄を賜りますよう謹んで御案内申し上げます。

敬具

リソルホテル株式会社

代表取締役社長 今泉 芳親

京都地区統括支配人 片山 善雅

ホテルリソル京都 河原町三条

支配人 青木 修一

2018年4月吉日

- 開催日 平成30年5月29日(火)
- 時間 内覧会 13:00~15:00
- 会場 ホテルリソル京都 河原町三条

京都市中京区河原町通三条下の大黒町59-1

- ・地下鉄東西線「京都市役所前駅」より 徒歩4分
- ・京阪本線「三条駅」より 徒歩3分
- ・阪急京都線「河原町駅」より 徒歩5分

※ホテル駐車場はございませんので、当日は公共交通機関をご利用ください。



- 申込締切 5月18日(金) ※FAXもしくはメールにてお申込ください

○返信先 ホテルリソル京都 河原町三条 青木 宛

FAX: 075-255-9279 メールアドレス: k-kyoto@resol-hotel.jp

○お問い合わせ先 京都開業準備室 片山・青木 TEL075-255-9269

貴社名

ご連絡先

・部署・役職

■内覧会 (いずれかにチェックください)

ご出席 ご欠席

・ご出席者名

「後藤象二郎寓居跡&記念ギャラリー」の紹介

(株)都市ガバナンス研究所

幕末に大政奉還を実現させた立役者、後藤象二郎（土佐藩重役）のいた寓居跡に、記念ギャラリーを開設します（平成30年6月1日）。その概要を紹介します。

ギャラリーイメージ



I. ギャラリーの立地（「ホテルリソル京都 河原町三条」に併設）

〔中京区河原町通三条通二筋下ル東入大黒町〕

II. 展示内容

後藤象二郎を中心に、坂本龍馬との交流、大政奉還の実現に向けた活動、維新後の活躍、寓居跡「壺屋」の紹介、周辺の史跡地図等をパネルや展示物で解説します。

(主な展示物)

- ①後藤象二郎と坂本龍馬が用いた撮影台の復元設置。
- ②周辺街並みの復元ジオラマ。



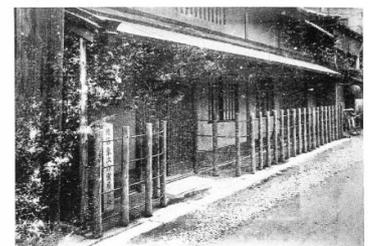
- ③象二郎が英国女王から贈られた宝剣の復元展示。



維新後に暴漢から襲撃された英国公使を、象二郎が闘争により防御した功績で英国女王から感謝の宝剣を贈られています。

- ④象二郎の署名した大政奉還建白書の複製展示
- ⑤「壺屋」跡を中心とした高瀬川界限の土佐藩中心の幕末史跡図。

当時の「壺屋」→



後藤象二郎寓居跡の跡・壺屋（旧写真）

III. アプローチの整備

以前に設置されていた京都市作成の駒札を復活させます。

また、戦前に建立、設置されていた石碑も河原町通沿いに改めて新造、設置します。



大政奉還百五十周年記念プロジェクト

～京都市～

幕末、京都には全国から国の将来を憂う人々が集い、議論し、一人一人の熱い思いが重なり合い、やがて大きなうねりとなり歴史を動かしました。

平成29(2017)年は、武家政権が終わりを告げ、新しい国づくりへの転換期となった慶応3(1867)年の「大政奉還」から150年の節目を迎えます。

京都市では、この記念の年に「大政奉還百五十周年プロジェクト」を実施し、当時京都で活躍された先人の歩みを再評価するとともに、幕末維新をテーマに京都の魅力を発信します。



後藤象二郎 (ごとうしょうじろう)



©港区立港郷土資料館

大政奉還の立役者の一人に後藤象二郎がいます。象二郎は天保9(1838)年、土佐藩士後藤正春の長男として誕生。家督を継ぐと土佐藩参政であった叔父の吉田東洋に抜擢され、藩主山内容堂(ようどう)の信任も厚かったとされています。東洋が土佐勤王党により暗殺されると失脚しますが、その後、前藩主の容堂が藩政を掌握すると大監察となり、土佐勤王党の弾圧を行いました。その功績で参政となり、慶応2(1866)年、洋船の購入のため長崎へ行った際に坂本龍馬と巡り会い、海外貿易や開港問題で意気投合。象二郎は龍馬の運営している亀山社中を「海援隊」として、藩の援助を受けられるように取り計らいました。

慶応3(1867)年、龍馬発案とされる大政奉還案を容堂に提出、これを土佐藩の藩論とし、「大政奉還建白書」として幕府に提出しました。同年10月13日、これを受けて将軍の徳川慶喜が大政奉還を表明しました。

明治新政府では黒田内閣や松方内閣で逓信大臣、第2次伊藤内閣では農商務大臣など要職を歴任。明治30(1897)年死去。享年60歳。墓所は東京都港区の青山霊園。

後藤象二郎郎寓居(壺屋)跡

この地は後藤象二郎が幕末の京都で常宿とした醤油商「壺屋(つぼや)」のあった場所であり、右の京都市の駒札が数年前までは立っていました。

この地に平成30(2018)年春にオープンするホテルには、この後藤象二郎寓居跡を記念したギャラリーが併設され、それに合わせて右の駒札も復活します。

(文責：(株)都市ガバナンス研究所)

後藤象二郎郎寓居跡

このあたりは、土佐藩士であり、後に明治新政府でも活躍した後藤象二郎(一八三八〜一八九七)が京都に滞在中、常宿とした醤油商「壺屋」があった所である。

後藤象二郎は義叔父である吉田東洋の塾で学び、安政五年(一八五八)には東洋の推挙で幡多郡の奉行職に就いた。文久二年(一八六二)東洋が暗殺され、武市瑞山(半平太)らの土佐勤王党の力が大きくなると、政治の一線から身を引き、江戸で西洋の学問を始め航海術を学んでいる。元治元年(一八六四)以降、再び藩政に返り咲き、土佐勤王党の弾圧をはじめ、武市を切腹に追いやり、前藩主の山内容堂の信任を得るところとなる。慶応二年(一八六六)には参政職に、翌三年には家老職に就き、土佐藩の若き重臣となる。

坂本龍馬の船中八策の考えに強く感銘を受け、山内容堂を通じて将軍 徳川慶喜に大政奉還の必要性を説いた。

明治維新後、新政府では盟友である板垣退助らと共に自由民権運動にも力を注ぐ一方、逓信大臣(郵便や通信を管轄する)や農商務大臣など政府の重職にも就いている。

京都市